



華やかな婚礼の場面。傾斜した床と、舞台後ろに投影した長崎の海と船の映像で高台からの眺望を表現するなど、視覚的にも楽しめる工夫があった。16日のマニラ公演(金本綾子撮影)

「蝶々夫人」は、ヒタルが地元のオペラ団体などと共同で北海道発のオペラを制作する「オペラプロジェクト」のプレ公演。プロジェクトは2022年度から隔年で道内主体の出演者やスタッフ、札幌交響楽団が結集してオペラを制作・発信し、劇場の魅力を高める。今回の「蝶々夫人」はヒタル主催公演初の有料動画配信も行。ネットの「HTBオンライン劇場」でフルハイビジョン、ステレオ音声、日本語字幕付きで配信する。視聴料2500円で期間は3月5日午前11時～22日午前11時まで。詳細はhttps://www.htb.co.jp/event/online_theater/



(中村隆夫・指揮者)
◇2月21日、札幌文化芸術劇場ヒタル。
星空の下、蝶々夫人とピンカートンが永遠の愛を誓う。19日のゲネプロ(金本綾子撮影)

音楽会

歌唱、美術、照明…全てにオペラの醍醐味

最高の一場面は結婚初夜の屋外。二人が下り立つ庭は広い石庭で、夜の訪れとともに空には星が瞬きはじめる。やがて星の輝きは降るように庭を覆い、永遠の愛を誓う二重唱が夜空に広がってゆく。オペラの醍醐味を極めた名シーンだ。歌を支える柴田真都指揮の札幌も幻想的な演奏で美しさを際立たせた。

プログラムには札幌大音楽科のオペラ活動で研さんを積んだ人たちの名前が連なる。この公演に果たした彼らの存在は大きい。30年以上にわたってともに活動した一人として、万感の思いがこみ上げる。

白い長大な板が天井からつり下げられ、場面転換に合わせ上下するのだが、板の上部は丸く切り抜かれ、暗い情念を表すような暗赤色で彩られたり、窓になってそこから長崎の港が望めたりする。舞台床は中ほどから奥に向かってゆるくせり上がり、それがステージをより広く見せている。

オーケストラの悲痛な響きや、花婿が下りると、劇場には盛大な拍手が鳴り響いた。札幌文化芸術劇場 hitaru (ヒタル) と北海道二期会の主催によるオペラ、ブッチーニ「蝶々夫人」公演の最後である。コロナゆえに席数は半分にされたが、その拍手には心からの共感と惜しめない賛賞が込められていた。

まずは音楽としても武士が舞台中央に進み出て、鋭く声を発しつつ剣を振る。全曲を貫く武士道精神を表しているのだろう。しかもその武士は芝居が動く結婚仲介人ゴロー(西島厚)に変化する。見事な舞台運びだ。

蝶々夫人の佐々木アンリは、清純な声と凛とした振る舞いの調和した出色の出来だったし、相手役を務めたピンカートンの岡崎正治は輝かしい声と練達の演技で抜群の存在感を示した。荊木成子によるアスキは主人への誠を貫く優しさにあふれており、他の出演者も例外なく魅力的。さらには二期会合唱団の層の厚さとレベルの高さも特記しておこう。

心に響いたのは演奏だけではない。舞台美術と照明は息をのむほど美しく、これらを支えられた演出の岩田達宗は日本の伝統的な精神と現代的な美とを見事に融合させていた。

蝶々夫人の佐々木アンリは、清純な声と凛とした振る舞いの調和した出色の出来だったし、相手役を務めたピンカートンの岡崎正治は輝かしい声と練達の演技で抜群の存在感を示した。荊木成子によるアスキは主人への誠を貫く優しさにあふれており、他の出演者も例外なく魅力的。さらには二期会合唱団の層の厚さとレベルの高さも特記しておこう。

オーケストラの悲痛な響きや、花婿が下りると、劇場には盛大な拍手が鳴り響いた。札幌文化芸術劇場 hitaru (ヒタル) と北海道二期会の主催によるオペラ、ブッチーニ「蝶々夫人」公演の最後である。コロナゆえに席数は半分にされたが、その拍手には心からの共感と惜しめない賛賞が込められていた。